

No.142
2020
Autumn

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



CONTENTS

さくら幼稚園

- p2-3 うんどうかい／卒園児からのメッセージ／ようちえんってこんなところ／とらんぼりん／園児募集

八戸工業大学

- p4-5 革新的プラスチック資源循環プロセス技術開発／壁画アート完成／公開講座実施と予定／学園祭／動力研究部／OBからのメッセージ
- p6-7 研究室紹介／陶芸実技講座／保護者懇談会／オープンキャンパス実施／進学相談会予定／2021年度入試日程／主な予定

八戸工業大学第一高等学校

- p8-9 第62回体育祭／高校総体代替大会／体験入学／部活動体験見学会／地域探訪学習／危険物取扱者資格乙種全類取得／玉掛け技能講習

八戸工業大学第二高等学校

- p10-11 SDGsアカデミア／フェアトレード／地域ESD活動推進拠点に登録／キャップアート／八戸工大SSP／スキルアップ発表会／ジオパークツーリズム／八甲田登山／読書ワークショップ／清掃奉仕活動／美術館出張講座／八戸PR動画づくり／第2コンピュータ室リニューアル

八戸工業大学第二高等学校附属中学校

- p12 島守フィールドワーク／JAXAオンライン授業／プログラミング講座
- p12 JIHEE受審／理事会

Mobile & iPhone & Android
モバイルサイトへアクセス▶▶▶



うんどうかい

～開会式～

「さいごまでがんばるぞ、エイエイオー！」

～満3歳・年少親子ゲーム～

「ノンタンになって、おかたづけするぞー！」

～年長遊戯「夏疾風」～

「バルーンのパウし、できあがり♪」

～年中親子ゲーム～

「ぜんいっになりきって、ポーズ!!!」

～八戸工業大学吹奏楽部～

「えんそうとおてつだい、ありがとうございました」

第50回運動会が10月3日（土）に開催された。例年6月末に実施していたが、今年は新型コロナウイルス感染症のため、延期されてこの日の開催となった。

厳しい残暑の中、コロナ感染症予防と熱中症への対応をしながら練習をしていたが、9月中頃には一気に気温が下がり体調が心配された。そんな状況でも子どもたちは、元気いっぱい練習に励んでいた。一学期は遠足も参観日も中止になり、今年度初めて家族が見てくれる運動会は、子どもたちにとって励みにもなり、楽しむことができたようだ。今日の子どものこの笑顔に勝るものはない。これからも出来ることをしてあげたいと強く思った。

卒園児からのメッセージ

親子二代でお世話になった幼稚園

卒園から30年近く経った2015年春、私は東京から故郷八戸に、妻と二人の娘と共に引っ越してきました。長女は通い慣れた東京の幼稚園から、このさくら幼稚園に転園するということで大きな不安を抱えていたことでしょう。私も同じ気持ちでした。

手続きのために長女を連れ、さくら幼稚園に行った日、なんと出迎えてくださったのが木村喜久子園長先生でした。私の幼稚園時代の担任の先生です。驚いたと共に不

安も消えました。長女が幼稚園に通ったのは一年間だけでしたが、たくさんの楽しい思い出ができました。

現在、次女がさくら幼稚園に通っています。家に帰ると幼稚園での出来事を楽しそうに話してくれます。親子二代でお世話になった幼稚園。これからもずっとこの場所です。子どもたちの成長を支え、笑顔あふれる幼稚園であり続けてほしいと強く願います。



タレント業
新山 大さん
(昭和63年3月卒園)



園児募集

満3歳児
3歳児
4歳児
5歳児
願書受付(お電話になり次第締め切り)
11月2日より

- 完全給食
- 通園バスあり
- 預かり保育あり



満3歳いちご組 9月1日(火)

最近、男の子たちは、年少組のA君と4人でブロックを使って作った武器で戦いごっこをするのにはまっている。撃つ真似をしたり、追いかけたり、逃げたりを繰り返し汗だくになって夢中で遊んでいる。今までは、個々の遊びが目立っていたが、2学期に入り、相手や周りの様子を気にするようになってきた。積極的に話しかけたり、顔を見合わせて笑い合ったり、友達と遊ぶ楽しさを少しずつだ感じてきているようだ。



「おにいちゃんのおかおだよ」

年少組 9月4日(金)

今日はみんなが楽しみにしていた遠足。目的地の八戸公園に着き、バスを降りると観覧車やジェットコースターが見えた。すると、いつもは静かな子が急にテンションが高くなり、「おおきくなったらのんだよ。あれに」と珍しく大きな声を出していた。広い芝生で思いっきり走って遊んだり、木に止まっているセミを見つけてじっくり観察したり、手作りのお弁当をみんなで食べたりと楽しい一日になったようだ。

年中組 9月10日(木)

作品展示会に向けての“雪だるま”作り。まるで本物の雪だるまを作るように新聞紙を重ねて大きく丸めながら「おもしろーい!!」と喜んで作っていた。その雪だるまの体にボタンやマフラーの装飾を付けて完成させた。普段から作り慣れている子は、器用に指を動かしてどんどん毛糸を編んでいた。長さで苦戦している子も、少し手伝ってもらっただけで最後まで自分で編むことができた。マフラーを付けた雪だるまに満足げな子どもたちだった。



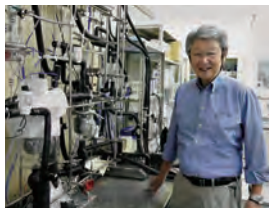
～すいかわり大会～
「あまくて おいしいな～」

年長組 9月2日(水)

外遊びをしている時、C君が、「せんせいにいうよ」とB君に言われたと訴えてきた。女の子の4人しか入れない鬼ごっこの残り一人枠を争ってもめたようだ。女の子にじゃんけんで決めたらと言われ、やったらA君が勝ったようだった。負けてもひかず、クラス全体にどうすればいいと思うか投げかけると、二人で入りたいことを伝えればいいという意見が出た。子どもたち同士で解決法を見つけ出せるようにきっかけを作ってあげることが大切だと感じた。

「革新的プラスチック資源循環プロセス技術開発」参画

プラスチックは石油から合成され、安価で軽く成形が簡単など、優れた性質があり、2015年には3.5億トン生産されている。しかし腐食性がない、すなわち自然に分解しにくいところに問題があり、年間800万トンが海洋に流出して蓄積されている。地球温暖化と同様に深刻な環境問題である。



このプロジェクトは、廃プラスチックを高度選別して、直接再利用あるいは石油化学材料化して資源循環を徹底するとともに、資源化できないものは焼却して、熱回収して発電し、さらに排熱を回収して熱駆動の吸収冷凍機で氷点下冷熱を製造して氷を製造するものである。従来最終処分場に廃棄されていたプラスチックをゼロにすることで、資源の高効率利用と海洋の汚染防止を目的としている。

野田研究室では、従来の吸収冷凍機の作動液である臭化リチウム水溶液に有機溶媒を添加して、従来廃棄されている低温排熱から氷点下冷熱を製造できる技術を開発している。すでに-5℃の冷熱が製造できることを実証している。今回のプロジェクトでは、冷凍機設計が可能な物性評価を確立し、実証機を設計製造して、研究成果を証明する予定である。この成果は廃プラスチック焼却熱に限らず、従来廃棄していた低温排熱が利用可能となり、省エネルギーに大きく貢献できる。

機械工学科教授 野田 英彦

親子で楽しむ、ものづくり

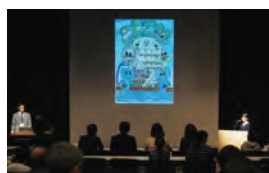
本学主催の公開講座「おもしろ電子工房～LED（発光ダイオード）を使って光の3原色を学んでみよう～」が8月4日、八戸市視聴覚センター児童科学館にて実施された。小学生とその保護者ら約50名が参加し、LEDが光るキットを工作した。参加者は完成品を動かしながら、光や色について学んだ。初めての半田付け作業に子どもたちは悪戦苦闘していたが、保護者と一緒に電子工作を楽しんでいたようだ。



電機電子工学科教授 石山 武

「住みたい家・住みたい街」コンクール2020開催

住まい(家)づくりや街づくりでは、そこに住み、生活主体としての具体的な住要求をもった居住者の主体的参加がなければ、豊かな住空間を創造することはできない。



本コンクールは、早い時期から自分たちの家や街について考え、地域社会の担い手として育てて欲しいとの思いから、八戸市内の小学5・6年生対象に開催し、今年5回目を迎える。9月末の予備審査を経て、発表会・表彰式が下記の通り開催される。(写真は、過去の発表会の様子)

会場：八戸ポータルミュージアムはっち

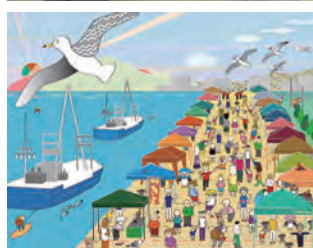
日時：10月31日（土）10：30より開催、入場無料

青い森信用金庫壁画アート完成

9月8日、青い森信用金庫本店にて壁画アートの除幕式と表彰式が行われた。これは、創生デザイン学科学生が青い森信用金庫から依頼を受け、同金庫の壁画アートの作成に取り組んだもので、採用作品はコンペ形式で選ばれた。



最優秀賞には、田沢陽菜さん（2年：八戸商高・写真左）と高橋咲耶さん（2年：秋田・大館国際情報学院高・写真右）の共同作品「館鼻岸壁朝市」



が選ばれた。青い森信用金庫益子政士理事長は、作品に対し「中心街から八戸の象徴である朝市の会場へまっすぐ向かっていくイメージが素晴らしい」と感想を述べた。

高橋さんは、「壁画のキャラクターに同じものはふたと無く、それぞれ個性を持つよう工夫した。隠れキャラもあるので楽しんでもらいたい」、田沢さんは「コロナ禍の中で暗い話題しかないが、壁画の青い海と太陽、八戸のシンボルである元気な朝市を見た人が笑顔になってくれたら嬉しい。」と語った。

壁画の展示期間は2年を予定しており、入選作品は、10月16日～3月31日 ユートリー2階連絡通路に展示される。

これからの公開講座

日時：12月16日（水）

場所：八戸ポータルミュージアムはっち

対象：一般・小学生以上（無料）、事前申込不要

16：00～17：30

●「十和田湖」はいつできた？

～地域イメージからみる

自然環境と持続可能性～十和田湖とイギリス湖水地方を比較して観光資源や国立公園形成を考える。



講師：八戸工業大学基礎教育研究センター 畠山 研
八戸工業高等専門学校総合科学教育科 菊池 秋夫

18：00～19：30

●スピリチュアリティの心理学

スピリチュアリティとは何か、スピリチュアルな生き方とは？を心理学の観点から考える。

講師：八戸工業大学基礎教育研究センター 佐藤 手織

両講座とも、あおもり県民カレッジ：2単位

<問い合わせ先>

メール（khatakeyama@hi-tech.ac.jp）

または、〒031-8501 青森県八戸市妙字大開88-1

八戸工業大学基礎教育研究センター 畠山研究室まで

第48回八戸工業大学学園祭 工大祭「Active」 10/10～11

爽やかな秋風の中、工大祭「Active」が開催された。

コロナ禍でイベント自粛ムードの中にあっても出来ることはあるはずと、規模を縮小しての実施であったが、学生たちの思いは熱く、来場者を楽しませていた。



サークル紹介

動力研究部、この夏の挑戦

毎年、夏季休暇中は、大会に向けてマシン製作や改良を行いながら、大学構内で練習走行を繰り返している。今年は秋田県の大会会場での練習走行も行った。



例年9月下旬に開催される「Honda エコマイレージチャレンジエコラン競技大会」や電気自動車エコラン大会である「ワールドエコムーブ (WEM)」に参戦予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年は両大会とも中止となった。そこで、マシンの性能確認や走行方法の確立を目的として、WEM 会場走行コースであるソーラースポーツライン (秋田県大潟村) で3台のマシンの走行練習を行った。8月下旬の猛暑の中、タイヤのパンクや通信機器のトラブルがあったものの、参加した9名の部員はそれぞれの役割を担い、マシンの走行データを取得することができた。



今年の大会に出場できない悔しさをバネに課題を解決し、次の大会で良い成績を収めたいと思う。

動力研究部部長 石戸 三奈 (上写真左から3人目)
(機械工学科3年/青森西高)

～ドライバーをウイルスから守れ！～ 後部座席強制換気システム開発中

インフルエンザや新型コロナウイルス感染からタクシー運転手を守ろうと、機械工学科浅川拓克准教授 (写真左) と工作技術センターが、簡単に車両後部座席に設置できる強制換気システムの開発に取り組んでいる。

9月29日、国土交通省、三八県民局、八戸市、タクシー会社協会関係者を招いて、このシステムの公開実証実験が本学で行われた。

運転席と後部座席の間にウイルス感染防止のシートを張り、車窓を閉め、エアコン ON 状態 (外気取り入れ) にすると車内前後で気圧差が生じる。運転席側の気圧が少し高いだけで、後部座席から空気が入り込まなくなり、飛沫やウイルスの侵入を防ぐことができる。

今回の実験は、感染防止効果をより高めるため座席窓に開発した強制換気システムを設置。セットされたシステムが汚染された空気を強制排気する様子を可視化し公開したものである。飛沫やウイルスが長時間滞ることを防げれば、ドライバーはもちろん後続の乗客のウイルス感染のリスクを軽減することができる。システムの実用化にむけた研究開発に期待する。



OBからのメッセージ

～仕事と趣味と夢を形に～

システム情報工学科卒 石亀 広大さん

4年前に卒業した石亀広大さん (五戸町出身) は、都内でフロントエンドエンジニア (高度な Web 制作スキルを活かし、Web アプリケーション設計や構築を行う) として活躍している。

最近、石亀さんはその腕を見込まれ、ネット上で無料公開されているツールの使い方をまとめ、1冊の Web サイト作成入門書「たった1日で基本が身に付く！」(技術評論社発行) を、出版した。

「表現したいものを形にできるのがプログラミングの魅力」と語る石亀さんは、フリーのフォトグラファーとしても活動しており、ビジュアライズをテーマとし人物撮影を中心に Web 媒体向けの素材提供を行ったり、海外コンペで評価をもらったりしている。



研究室紹介 ～Part2

今年度着任された先生方を、紹介します。

石毛清八研究室

～モノづくりを実践する学びと試みの場～

人はその歴史の始まりから自らの生活の場で用いる道具を自らの手でつくり出してきました。古くは縄文時代の土器など、人類の土台となる多くの文化がモノづくりから始まっていることからわかるとおり、自分で作るという感覚は、人間の本能とも関係しているようです。



本研究室は、私たちの生活に深く関わりのある、土、木、籐などの素材を中心に、より良い生活環境を創造するために、モノづくりを実践する学びと試みの場です。人間の制作とモノに関わりをもち、心地よい暮らしをデザインするための豊かな感性と幅広い知識、問題意識を養います。

民藝運動の創始者である柳宗悦は、簡素で飾らない美しさ

と、道具としての機能性を併せ持つ民藝品に“用の美”という概念を見出しました。“用の美”の視点から、よい器の条件として、使いやすさを考慮した形であること、丈夫であることがあげられます。飯茶碗は常に持ち上げて使うので、大きさと重さ、高台の高さや幅、胴の反り具合が手になじむかということが最も大事です。また、お茶漬けや雑炊などの器として縁に口を当てる機会も多いので、縁の厚みや返しなどの処理が心地よいかも考慮する必要があります。こうした“用”の重要性とそれらがつくりだす“美”について、自らの手で器を作り、実際に食材を盛りつけ使用することで学生たちに楽しく実感させていくのです。



創生デザイン学科准教授 石毛 清八

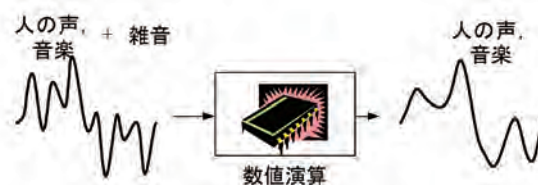
越田俊介研究室

～数値演算を用いた音声・画像信号処理技術～

本研究室では、デジタル信号処理に関するテーマについて、基礎理論から応用技術まで幅広く研究しています。デジタル信号処理は、コンピュータによる足し算や掛け算をはじめとする数値演算によって音声や画像などの信号を加工・変形・分析する技術であり、情報通信・音声音響・画像・映像・医療など非常に幅広い分野にて用いられています。たとえば携帯電話では、通話時の音声に対して混入する雑音を除去するシステムが搭載されており、このシステムはデジタル信号処理技術によって実現されています。



特に注力しているのは、各種のデジタル信号処理システムにおける消費電力の削減と演算精度の向上です。近年ではIoTデバイスの爆発的な普及に伴い、回路規模や消費電力に



関する制約が厳しくなり続けているため、デジタル信号処理システムに対しても小型化・消費電力化が強く求められています。しかしながら、小型化・省電力化は一般的に演算精度とトレードオフの関係にあるため、近年強く要求される回路規模と消費電力の厳しい制約を満たそうとすると、演算精度が大幅に劣化してしまうという問題が生じます。そこで本研究室では、この問題を解決するための方法論を与え、高い演算精度を維持しつつ回路規模および消費電力の削減を達成できるデジタル信号処理システムの技術を開発することを目的として、研究に取り組んでいます。

電気電子工学科准教授 越田 俊介

島内宏和研究室

～数理情報学を中心とした学際的研究を展開～

本研究室では、医用画像処理に応用がある擬等角写像の数値的構成や深層学習の安定化、精神医学分野におけるデータマイニング等、数理情報学と知能情報学を中心とした学際的な研究を展開している。



最近では、心理学者や精神科医らとともに、簡便な質問紙である子どものコミュニケーション・チェックリスト（CCC-2）の回答と機械学習の手法を用い、子どもの自閉症スペクトラム障害（ASD）の分類器の構築に取り組んだ。簡便な質問紙により ASD の一次スクリーニングができれば多忙な医師の診断を補助でき、さらに構築した分類器の分析により ASD についてより深く理解できる可能性がある。研究の結果、高精度な分類器を構築することができた。さらに、分類に重要な項目を解析することで、子どもの

ASD の分類に重要と考えられる CCC-2の項目を見出した。本研究は現在も継続しており、さらに研究の過程で必要性を感じた臨床等の説明が求められる分野のためのデータマイニング手法についても研究をはじめている。今後も他分野の研究者らと共同で研究を多面的に進めるとともに、必要性を感じた分析手法の構築等にも取り組んでいきたい。

本研究室の卒業研究生7名は、深層学習を応用した研究を行っている。最近、ニュースなどで人工知能（AI）の話題をよく耳にするのが、地域においてはAIを活用できる人材が不足しているように感じる。AIの素養を持ったエンジニアを地域に輩出できるよう、教育に取り組んでいきたい。



システム情報工学科講師 島内 宏和

陶芸実技講座実施

7月30日～8月4日、本学を会場に創生デザイン学科石毛清八准教授が講師となり、八戸市中学校美術教育研究会（安田真理子会長）会員を対象に陶芸実技講座を開催した。

講座では、小鉢と飯茶碗を制作し、普段はなかなかできない美術科教員のスキルアップと会員間の情報交換が図られた。参加した教員からは、「実用性の高い“食器”が題材で、美術・工芸と生活のかかわりを実感できました」との声や、「自分で作ったものを使うことの感動を、子どもたちにも味わわせたい」との感想が聞かれた。



保護者懇談会

9月12日・13日、保護者懇談会が本学で開催された。今年度は新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、例年の6会場（八戸市、弘前市、青森市、秋田市、盛岡市、仙台市）での個人面談から、「八戸会場（本学：個人面談）」又は「電話懇談（10月実施）」による開催とした。

個人面談は、入場時の体温計測、手指の消毒、マスク及びフェイスシールドの着用等、感染予防対策に万全を期し実施され、それぞれの保護者は学科の教員からの学修状況、学生生活、就職活動などの説明に熱心に耳を傾けていた。



進学相談会予定

開催日	時間	開催地	会場
11月2日(月)	15:45～18:00	由利本荘	由利本荘市文化交流館カダーレ
11月5日(木)	14:00～18:00	弘前	弘前市民体育館
11月10日(火)	14:00～18:00	八戸	きざん八戸
11月11日(水)	15:00～18:00	秋田	アルヴェ
11月11日(水)	15:45～18:00	十和田	サン・ロイヤルとわた
11月26日(木)	15:00～18:00	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡本館
11月27日(金)	15:30～18:00	奥州	水沢グランドホテル
12月10日(木)	15:00～18:00	弘前	アートホテル弘前シティ
12月11日(金)	15:00～18:00	八戸	八戸プラザホテル

オープンキャンパス実施

今年のオープンキャンパスが8月9日、9月6日、両日とも午前と午後の2回、実施された。

当日、生徒の皆さんは、希望の学科へ移動し、研究設備や装置、機器に触れたり、学科の研究内容等の説明を聞いたり、その眼差しは真剣そのものであった。

同伴された保護者の方は、入試部長による保護者向けの説明会に参加し、個別相談コーナー

で質問や疑問、学生生活や経費の話などの相談をしていた。

他大学においては、新型コロナウイルス感染症の為、オープンキャンパスを実施しないところもある中、本学では徹底した感染対策を行い実施にこぎつけた。参加された方々からは、「実際に参加できて良かった。」「見たこともない装置や機器に触れ、見るのができて良かった。」など、有難いお言葉をいただいた。



2021年度入試日程

入試区分		願書受付期間(必着)	試験日
総合型選抜試験	第2クール	11月13日(金)～11月20日(金)	11月28日(土)
	第3クール	1月25日(月)～1月29日(金)	2月10日(水)
	第4クール	3月1日(月)～3月5日(金)	3月10日(水)
学校推薦型選抜試験	指定校制	11月1日(日)～11月6日(金)	11月14日(土)
	公募制	11月24日(火)～12月4日(金)	12月14日(月)
一般選抜試験	前期	1月4日(月)～1月22日(金)	2月2日(火)
	後期	2月15日(月)～2月26日(金)	3月5日(金)
大学入学共通テスト利用選抜試験	前期	1月4日(月)～1月26日(火)	大学入学共通テスト ①2021年1月16日(土)・17日(日) ②2021年1月30日(土)・31日(日)
	中期	2月1日(月)～2月14日(日)	
	後期	3月1日(月)～3月17日(水)	

11月～1月の主な予定

11月7日・8日	彩才祭（文化会主催）
11月14日	学校推薦型選抜試験（指定校制）
11月28日	総合型選抜試験第2クール
12月14日	学校推薦型選抜試験（公募制）
12月25日～1月5日	冬季休業
12月26日～1月3日	年末年始窓口休業
1月6日	授業開始
1月16日・17日	大学入学共通テスト第1日程
1月21日～26日	後期定期試験
1月30日・31日	大学入学共通テスト第2日程

第62回 体育祭



8月28日、第62回体育祭が八戸市東運動公園陸上競技場で開催された。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、競技の規模を縮小しての開催となった。

「力戦奮闘～一瞬の輝きを永遠の思い出に～」というスローガンのもと、今年度初の学校行事が行われた。開会式では体育祭スローガン優秀作品の表彰が行われ、黒田将矢君（スポーツ進学コース2年／大平中）に最優秀賞が贈られた。競技種目は、いつもと違い工夫を凝らしたものが考えられ、感染予防に注意して行われた。軍対抗では、優勝青軍、2位黄軍、3位白軍、4位赤軍。女子対抗は、優勝3年生、2位1年生、3位2年生となった。

天候にも恵まれ、笑顔がたくさんある大変盛り上がった体育祭となった。

令和2年度 青森県高校総体代替大会結果一覧

団体優勝

◆ボウリング(男子)◆

金濱 亮汰(情報コース3年／長者中)
田中 達也(機械コース2年／白山台中)
齋藤 洸和(電気コース3年／十和田中)
下平 至住(電気コース3年／根城中)

◆ゴルフ(男子)◆

加瀬谷 駿(スポーツ進学コース3年／稲川中)
赤石 拓斗(総合コース3年／二ツ井中)
中田 輝希(土木コース3年／階上中)

団体準優勝

◆バスケットボール◆

菊池 真史(特別進学コース3年／十和田中)
平澤 遥斗(スポーツ進学コース3年／津軽中)
小鹿 大貴(総合コース3年／下長中)
田中 雄樹(公務員コース3年／大館中)
松本 凱人(公務員コース3年／上北中)
若本 翔太(電気コース3年／白山台中)
庭瀬史久翼(機械コース3年／種市中)
加倉 望(機械コース3年／八戸三中)
江刈 聖(土木コース3年／市川中)
中澤 拓馬(建築コース3年／三戸中)
沢目 将人(特別進学コース2年／十和田東中)
伊保内 蓮(スポーツ進学コース2年／白銀中)
木村 真輝(スポーツ進学コース2年／津軽中)
石鉢 颯生(土木コース2年／八戸一中)
赤平 奏人(普通科1年／北稜中)

団体第3位

◆アーチェリー(男子)◆

大橋 和(情報電気通信コース3年／八戸一中)
小笠原莉空(情報電気通信コース2年／江陽中)
月舘 啓太(建築コース2年／根城中)
高松 泰樹(機械コース2年／大館中)

◆アーチェリー(女子)◆

田中 唯稀(特別進学コース3年／湊中)
十文字詠美(建築コース2年／釧中)
水溜 彩音(建築コース2年／大館中)

◆ウエイトリフティング◆

奈良 日翔(総合コース2年／湊中)
松橋 健太(情報コース2年／八戸一中)

個人優勝

◆ソフトテニス(女子)◆

工藤 芽依(特別進学コース3年／中里中)
三上 結生(公務員コース3年／板柳中)

個人ダブルス
個人ダブルス

◆ソフトテニス(男子)◆

川村 聖哉(建築コース3年／十和田中)
東 淳之介(特別進学コース2年／中野中)

個人ダブルス
個人ダブルス

◆自転車競技◆

齋藤英伊須(電気コース2年／大館中)

ロード40km

◆ボウリング(女子)◆

石川 優心(普通科1年／四和中)

◆ゴルフ(女子)◆

小笠原唯愛(スポーツ進学コース3年／山王中)

◆ゴルフ(男子)◆

加瀬谷 駿(スポーツ進学コース3年／稲川中)

◆登山◆

中曽根知希(総合コース2年／根城中) 山岳気象・救急法・山岳知識

◆ボクシング◆

倉本 聖蓮(総合コース3年／根城中)

バンタム級

個人準優勝

◆ソフトテニス(女子)◆

中村 史帆(特別進学コース3年／大平中)
角 花音(公務員コース3年／三沢二中)

個人ダブルス
個人ダブルス

◆ソフトテニス(男子)◆

山口 碧斗(建築コース3年／下長中)

個人ダブルス

戸来 将也(スポーツ進学コース3年／十和田中)

個人ダブルス

◆ゴルフ(男子)◆

赤石 拓斗(総合コース3年／二ツ井中)

個人第3位

◆ソフトテニス(男子)◆

谷地 光(機械コース3年／市川中)

個人ダブルス

小渡 一吹(情報コース3年／根城中)

個人ダブルス

丸山未来翔(特別進学コース3年／八戸東中)

個人ダブルス

円子 幸樹(公務員コース3年／七百中)

個人ダブルス

◆登山◆

小野浩太郎(公務員コース3年／下長中)

山岳知識

平内 凜(情報電気通信コース3年／百石中)

山岳知識

七尾日々輝(情報電気通信コース3年／八戸一中)

山岳気象

◆ボクシング◆

小野寺咲太(建築コース2年／小中野中)

ライトウェルター級

田口 智樹(建築コース2年／小中野中)

フライ級

◆ゴルフ(男子)◆

中田 輝希(土木コース3年／階上中)



体験入学



コロナ禍により、急遽開催日程を8月5日～7日に変更して体験入学を行った。入場口での検温の実施、会場のソーシャルディスタンス確保などを施しての実施となったが、滞

りなく終了することができた。

約500名の中学生と保護者130名の参加があり、普通科4コース、工業科6コースの中から予め申し込んでいた4コースの体験をしてもらった。各コースのそれぞれに工夫を凝らした体験を通して、本校の魅力の一端に触れることができたと考えられる。とりわけ、寸劇等を交えた普通科4コースの催しは中学生に大変評判が良かった。終了後に行ったアンケート調査から、今回体験できなかったコースも見なかった他、多数の声が寄せられていた。



部活動体験見学会を終えて

8月22日、今年度1回目の部活動体験見学会が開催された。今回は中学生160名に加え、保護者も多数参加するなど本校の取り組みに対する関心の高さが感じられた。参加した中学生からは、「とても楽しく雰囲気良かった」、「アドバイスが分かりやすかった」、「優しく丁寧に教えてくれた」などの感想があり、体験終了の際はとても満足そうな表情を浮かべていた。



アイスホッケー部 テクノルアイスパーク八戸にて

地域探訪学習

7月8日、3年普通科総合コースで地域探訪を行い是川縄文館、八戸市博物館で八戸の歴史や縄文時代の文化を学んだ。

生徒は、小学生や中学生の時に訪れたことがあると話していた。事前に「地域探究」の授業で八戸の歴史や文化について学習していたこともあり、「八戸城跡」や国宝である「合掌土偶」など、真剣な眼差しで見学していた。

また解説ボランティアの方のお話を聞き、教科書に載っていない知識を得ることができ、貴重な体験学習となった。



危険物取扱者資格乙種全類取得

高橋寛君（機械コース3年／白銀中）が消防法で定められた国家資格である、危険物取扱者資格乙種を全類取得した。危険物取扱者資格は消防法令、物理・化学と性質、消火の各分野から出題され、それぞれ60%以上で合格となる。乙種第4類取得をきっかけにこつこつと勉強を始め、今年7月には乙種第3類を取得、第1類から第6類の全類取得を果たした。高橋君は、「次は甲種危険物取扱者資格に挑戦したい」と笑顔で意気込みを語った。



玉掛け技能講習

7月27日～29日の3日間にわたり、土木コース・建築コースを中心とした工業科の生徒24名が参加し、公益社団法人ボイラ・クレーン安全協会の指導のもと「玉掛け技能講習」を実施した。27日・28日は、本校で学科講習と学科試験が、29日は八戸工業大学北側駐車場で実技講習と実技試験が行われた。

学科講習では、難しい用語に苦戦しつつもしっかり勉強していた。実技講習では、前日までの雨が嘘のような晴天に恵まれ、技能取得に向けて真剣な表情で取り組んでいた。



SDGs Academia

8月18日、25日、28日、オンライン形式での研修に18名の生徒が参加した。この活動はフィリピンを活動拠点とするNGO LOOBと、NPO法人LOOB JAPANが主催となり行っているもの。この研修は、SDGsを理解し、自分の意見を持って行動を起こすことのできる次世代リーダーを育成することを目的としている。

貧困、教育、環境をテーマとして、日本とフィリピンの現状や問題点等を共有し、その内容を踏まえ英語を用いて本校生徒と現地の若者が意見交換をした。初めは緊張していた生徒たちだったが、回を重ねるごとに英語でコミュニケーションを取る



ことに積極的になっていった。参加した生徒は、「自分が世界や日本の問題点をほとんど知らなかったことに気づけた」「オンラインで話したフィリピンの学生のように、英語でも日本語でも自分の意見をはっきりと述べられるようになりたい」と感想を述べた。

Fair trade

NPO法人LOOB JAPAN理事吉永幸子さんの講演を聞き国際協力について学んだ本校生徒35名が持続可能な社会の開発を目指し、フェアトレード商品の販売に取り組んだ。

商品はフィリピンの方々手作りした雑貨製品で、文化祭（7月22日・23日）の2日間で91,700円を売り上げた。そのうち約28,000円が現地の方に渡るといふ。参加した生徒は、「自分が手伝える範囲で、今困っている人を助けられるということ全校生徒に知ってもらえてよかった」と話した。



地域ESD活動推進拠点に登録されました



本校はSDGs達成のため、持続可能な社会の創造を目指して行う教育活動(ESD)に取り組んでおり、この度青森県では2件目の地域ESD活動推進拠点に登録された。

地域ESD活動推進拠点は、文部科学省・環境省が推進する「持続可能な開発のための教育(ESD)」のネットワークの中核となり、他の拠点と連携や支援を行う存在である。また、ESDの広がりや深まりを通じて地域の諸課題の解決と教育の質の向上、持続可能な社会づくりをめざす「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に向けた意識、行動変革を進めることを目指している。

これまで本校が取り組んできた地域資源を守る活動や地域活性化活動をさらに発展させていきたい。

エコキャップモザイクアート制作

文化祭（7月22日・23日）に向けて、1年生有志がエコキャップモザイクアートを制作し、完成させた。この活動は、本校附属中学校が始めたものを発展させて行われたもの。生徒・教員から集めたエコキャップを洗浄と分別をし、段ボールに張り付けて作成した。文化祭終了後はモザイクアートを解体し、キャップをリサイクル業者に買い取ってもらい、その売却収益をNPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付する予定である。参加した生徒たちは、「予想以上に素敵な絵に仕上がった」「この作品が解体されても、世界の子どもの命を救えるのであれば嬉しい」と満足げに語った。



「八戸工大SSP」

8月6日・7日、「HIT-SSP（八戸工業大学サマー・サイエンス・プログラム）」が開催された。今年度のSSPは工学部と感性デザイン学部、基礎教育研究センターから12講座が開講され、1年生のスーパーカ



レッジクラスと2年生のアクティブカレッジクラス理系の生徒32名がそれぞれの講座に分かれて参加した。参加した生徒たちは、普段の高校生活では学ぶことのできない専門的知識や先端技術に触れたりすることで、充実したプログラムに手応えを感じていた。

スキルアップ発表会

各学年の代表生徒は、これまでに参加した学外学習や外部団体との共同プロジェクトの成果をまとめたスライドを作成し、発表を行った。

発表内容はマイクロプラスチックの研究、南部菱刺しを用いた伝統文化と現代文化との融合やフェアトレードを通じての海外支援など多岐に渡り、発表を聞いた生徒たちの活動意識を高めるいい機会となった。

9月2日、1・2年生を対象にスキルアップ発表会を実施した。



カレッジコース

ジオパークツーリズム

10月10日、三陸ジオパークツーリズムが実施され、本校生徒19名と附属中学生2名が参加し、蕪島から種差海岸芝生地までの約8kmを完歩した。

ジオとは、「地球・大地・地理や地質」を表す言葉である。生徒は事前学習として、ジオパークとは何か、三陸の5億年の歴史や風土、八戸エリアの見どころや過去の地震・津波災害などをレポートにまとめたの参加であった。従来の「観光地」としての魅力に加え、知的好奇心をくすぐる“大地の魅力”という視点からもツーリズムを堪能した。



八甲田登山

7月25日、理科教育の一環である「科学への誘い」の一つとして、高校生、附属中学生の計28名で北八甲田山系の登山を行った。例年であれば、前日にキャンプを行ったのち、登山をするという企画であったが、新型コロナウイルス感染予防として、登山のみ行われた。高校生は毛無ラインを通過して下山するルートを巡った。参加した生徒からは「普段見ることができない高山植物や事前に調べてきたことについての理解をさらに深めることができた」などの感想が述べられ、充実した一日となった。



読書ワークショップ

8月4日・7日、本校図書室にて読書のワークショップが開催され、14名の希望者が参加した。

1日目はお薦めの本を5分で紹介する校内ビブリオバトルを実施、読みたくなった本を皆で投票するチャンプ本には、今村夏子著『むらさきのスカートの女』（朝日新聞出版）が選ばれた。

2日目は八戸ブックセンターに場所を移し、書棚から気になった本を持ち寄り、その理由と共に紹介し合う発表会を行った。生徒らは交流を深めながら様々な本への関心を広げた。



情報ビジネスコース

清掃奉仕活動

8月29日、SDGs推進に向けた活動（海の豊かさを守ろう）の一環として、情報ビジネスコース1・2年生総勢約60名が、蕪島・館鼻漁港の清掃奉仕活動を実施した。本年は、2年生の班長を中心とした班編成で行った。暑い中ではあったが、「八戸市に住む人間として、



地域と海を大切にしたい！」と参加した生徒たちは思いをひとつにして活動した。環境活動への意識を高めるいい機会となった。

八戸PR動画づくり

8月29日、情報ビジネスコース1年生は八戸の魅力を知りたくて多くの方々に知ってもらいたいという思いから、八戸のPR動画の撮影を実施した。

第一弾は蕪島PR動画の作成として、ドローンを使った空撮も行った。自分の住む地域の魅力を、動画を通じて発信していきたいと、生徒らは活動の継続を目指している。



生徒がドローンで撮影した蕪島神社

美術コース

美術館出張講座

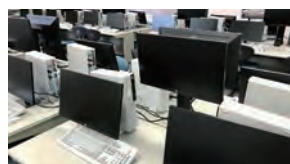
8月29日美術コース1・2年生を対象に、篠原英里さん（八戸市まちづくり文化スポーツ部 新美術館建設推進室 企画運営グループ）を講師にお呼びして美術館出張講座を開催した。

第一部では、美術館の成り立ちと西洋と日本の美術館の違いを学んだ。第二部では、これからの美術・美術館の考察をし、八戸市美術館の目指す美術館のビジョンをスライドで紹介された。生徒たちは、日本における美術と美術館の成り立ちから現在の美術やアートの立ち位置、これからの美術館について理解を深めていた。



第2 コンピュータ室リニューアル

第2 コンピュータ教室のパソコン全40台が、Windows10搭載のパソコンに更新された。第1 コンピュータ教室と同様のシステムにすることで、多くの生徒が同時にweb会議システムやオンライン英会話などに接続できるようになり、学習環境が改善された。今後は、総合的な探究の時間や各種検定の講習、個々の進路学習への活用が期待される。



島守フィールドワーク



7月17日、第1回校外研修「南郷区島守地区の里山散策」(フィールドワーク)を実施した。

最初に、鷹巣展望台から大きく広がる田園を眺め、島守地区が盆地のため米作りに適していることを学んだ。「朝もやの館」では上野大輔館長から、島守の暮らしについての説明があり、人々が助け合いの精神を大切に生活していることや、古いものも大切にすることで、価値が高まることを学んだ。

次に、全国で3例目となる「中世の水田跡」を訪れ、700年以上前から米作りが行われてきた田園の歴史について学び、今後も田園を守り続けるために地域の方々が地域活性化に向けた取り組みをしている話や、無農薬で稲を育てている農家の方の話を伺った。

この他、2時間ほどのカントリーウォークを行い、福一満虚空蔵菩薩堂やホテル水路、水車小屋などを見学し、里山の豊かさを体感した。昼食では、地元有志の方々が手作りした郷土料理や赤飯を大変おいしくいただいた。

最後に、共にフィールドワークに参加した大学生や、地元の方々と対話をし、研修のまとめを行った。研修の内容が充実していたため、生徒からは「とても良い体験がたくさんできた。地元の方に感謝したい。」との感想もあり、実り多き機会となった。



JIHEE 受審

本学は今年度、(公財)日本高等教育評価機構(通称:JIHEE「Japan Institution for Higher Education Evaluation」)による、認証評価を受審した。

これは、大学の個性・特色ある教育研究活動等の自律的な展開を支援・促進することを目標に、大学の教育研究活動等の総合的な自己点検や評価、検証を行い、大学の自主的な内部質保証の充実を図るものである。

JAXA オンライン授業

7月8日、「理想の惑星を考えよう」をテーマに、宇宙航空研究開発機構(JAXA)によるオンライン授業が行われた。

生徒たちは新たな惑星に移り住むとしたら、どんな社会をつくりたいかをイメージし、17個あるSDGs(持続可能な開発に向けての目標)の中から、特に大切にしたい目標を3つ選び、なぜそれを選んだのかという理由を考えた。また、今後の学校や生活の中で大切にしたいことを考え、意見をまとめた。

「宇宙に対する興味が湧いた」「宇宙空間という厳しい環境で、いろいろな知恵や技術が活かされていることに気が付いた」などの感想を述べる生徒がおり、今回の授業は、宇宙への理解や地球環境、生物多様性について関心を高める良い体験となった。



プログラミング講座

8月29日、八戸工業大学システム情報工学科にて、小玉成人准教授による附属中学校生対象プログラミング講座「マイクロビットを使って作成した宝探しゲームで遊んでみよう」が行われた。

まずは、超小型マイコンボードであるマイクロビットとプログラミング学習環境である MakeCode を使って基本操作や無線通信機能を用いた双方向通信実験を行った。

次に、2台のマイクロビットを使って、1台をお宝探しのためのレーダーとし、もう1台を宝箱になるように自分たちでプログラミングをして、校舎内に隠された宝箱マイクロビットを探す「宝探しゲーム」を楽しんだ。参加した生徒からは「いろいろ



なもの組み合わせられることで、身の回りの機械などが動いていることを知った」などの感想が述べられた。身近にある様々な機械の仕組みに興味を持つきっかけとなった。

理事会

◇7月24日 理事会

・学校法人八戸工業大学「教職員の採用」に関する件

◇9月18日 理事会

・「新型コロナウイルス感染症に伴う八戸工業大学学費等減免特別支援規程」制定に関する件
・学校法人八戸工業大学資産運用に関する件